

全日本総合バスケットボール選手権 TO 委員派遣 報告書

昨年に引き続き、2017年1月2日～3日の2日間、全日本総合選手権大会2017へ山口県バスケットボール協会より派遣、2試合のTO割り当てを頂き従事して参りましたので、ご報告申し上げます。

報告書の最後に派遣者の重政氏が東京都TO委員長やJBAの前TO委員長からのアドバイスをまとめてありますのでご参考まで。

(岩柳)地区 (クラブ)連盟 氏名(中野 章吾)

1. 派遣者

TO委員会としては昨年同様に6名を派遣する希望だったが予算の都合上、5名の派遣となった。派遣者は各連盟から募り、来年に控えた全中山口大会に向け中学生・中体連を優先的に派遣することにした。派遣者は以下。

中野 章吾(クラブ)、松富 仁美(ミニ)、友利 彩子(中学)、村上 雄平(中学)、重政 由佳里(実業)
以上5名

2. 日程概要

1月2日 始発にて山口より鉄道にて東京へ。駒沢体育館には13時頃 到着。

大会関係者へ手続きやIDパスを取得、割当確認と器具や注意点の説明を受けた。

担当した試合は16時より 女子1回戦 紀陽銀行 - 今治オレンジブロッサムの試合でした。

スコアラー：松富氏、アシスタントスコアラー：友利氏、タイマー：村上氏、ショットクロック：重政氏
TO主任：和嶋氏(東京都連 A級審判員 クラブ連) が担当しました。

試合終了後にポストカンファレンスを行い、初日は終了しました。

新宿駅前に宿泊先が在り、到着したのは19時前でした。

1月3日 会場は代々木第二競技場となり、器具への不安もあって事前に操作要領や模擬操作を行うべく10時30分には会場入り、大会関係者への挨拶も行き、第二競技場へ移動、諸説明を受けた。

担当した試合は14時より 男子1回戦 九州電力 - 白鷗大学 の試合でした。

スコアラー：松富氏、アシスタントスコアラー：中野、タイマー：村上氏、ショットクロック：重政氏
TO主任：伊藤氏(東京都連 TO委員長 高体連女子)が担当しました。

試合は16時に終わり、控室にてポストカンファレンスを行ったのち、事後の整理などを行った後、17時過ぎに会場を後にした。Uターン帰省の影響で新幹線は遅れ気味で19時に品川を出発し、23時前に帰山しました。

3. 山口県 TO 委員会が担当した試合。

【1月2日 駒沢体育館】

① 担当ゲーム

(女子1回戦) 紀陽銀行 - 今治オレンジブロッサム

② 役割

※ 自身は担当無し。観覧席で見学。

③ 感想および反省点

開始早々にブザー音が小さいがためにショットクロックバイオレーションが審判員に聞こえず TO より合図器具を鳴らし、審判員へ知らせた行為が有ったが、ミスも無く前半が終わった。

後半は安心からか 3P にファール、交代、タイムアウトの請求が同時に来て混乱する場面が有り、和嶋氏のアシストを受けてその場を乗り切った。

試合は接戦となり延長にもつれ込んだが最後は紀陽銀行が振り切った形で終わった。

終了時限のファールゲームに対するタイマーの操作は敏感だったこともあり、ベンチ、審判、観客も試合に集中出来たと思いました。

④ 主任講評 ※和嶋氏

前半に起こったショットクロックバイオレーションに関して合図器具を鳴らして知らせる行為は TO 権限を越えていたのでは？との指摘を受けた。規則 P228 では「騒音などで合図が聞こえない場合は手を振るなどして審判へ知らせる」とありますから立ち上がるなどして対応する方がより規則に則った行為だと思います。

3P のタイムアウト同時請求に関して、同時に来てでも先に「スコアラーが確認した方に請求が成立」することがただ、全員のレベルが高く安心して試合を任せることが出来た。とのことでした。

【1月3日 代々木競技場 第二体育館】

① 担当した試合

(男子1回戦) 九州電力 - 白鷗大学

② 役割

アシスタントスコアラー

③ 感想

事前に器具の確認を行うべく開場前に会場入りし、器具の操作説明を

昨日の駒沢と同じ機材に加えて、個人・チームファールのデジタル表示機具やノートパソコンが設置してあり電光掲示板の個人ファール、タイムアウトの回数を表示する様になっていた。

昨年スコアラーを経験し、隣で中野龍一氏(車椅子連)が器具の操作を悪戦苦闘していた事を思い出した。

優先は加点、個人・チームファール数表示の後に電光掲示板の個人ファール数表示の操作を行うように確認を行ったが、いざ試合が始まると最初のスコアを逆に加点し、落ち着いて即座に訂正を行ったが予想以

上に緊張していた。さらにファールレポートなどで早い場内アナウンスが追い打ちをかけ更に慌てる状況に陥ったが、スコアラーの松富氏や主任を務めた伊藤氏のフォローで直ぐに軌道修正が出来た。

試合はまたしても終了間際まで接戦となりタイムアウトの請求が気になりスコアラーと同じ方向を見てしまい視野分担など大きな課題を露呈してしまった。

基本的にスコアラーは試合に集中して、アシスタントスコアラーが視野のフォローをするのが良いと感じた。

この点は試合前に確認しておくことで視野の重なりを予防できると思います。

最後にファールゲームとなりスコアラー、アシスタントスコアラーも大忙しで疲労困憊で試合を終えた。

④主任講評 ※主任は伊藤氏。飛び入りで本間 充氏(A級 前 TO 委員長)が参加した。

基本的に大きなトラブルも無く、全員の今持っている力を出し切った様を感じる。視野の分担に関してはキョロキョロするのも方法の一つだが、背筋を伸ばして広い視野を持つのも一つの方法と思う。

交代やタイムアウトなどスコアラーが確認したのを“うなづく”では無く、“サムアップ”にする方が万国共通で良いと思し、明確である。明確な行為が誤解からのトラブルを防止する。

一つ一つを機敏に行う(タイマーストップ)。

その他としてタイマーなどが行っていたがオートマチックなやり取りの方が良いと思う。誤解を招かない事が安定した運営には不可欠である。従って、予測のための「交代が来るかも・・・」や「タイムアウト来るかな・・・」は誤解から来る誤操作の因子になるので、確実な情報しか伝達しない。

4. 今回の派遣に関する感想

昨年に続き今回も参加となりました。ただ、予算の都合で兼重委員長が断念し、立場上で自分が責任者となって4人を率いるのはTO以外で昨年と違った責任感を感じました。

会場入りして全国各地より派遣されたTO委員とも少しだが交流も出来、山口県と言えば「テーブルオフィシャルズ・マニュアル」が有る！と認知されており、小坂顧問や兼重委員長の長年の尽力が全国へ大きな影響を与えている事に感激すると共にこの財産をしっかり守って行くと共に発展させなければと思いました。

また、TO主任が試合後の講評で悪い点を指摘するのではなく「自分を含めた一緒にTOチームとして選り良くなる方法を考えましょう。」と前向きな講評の仕方には非常に参考になったし、講評される者としても内容を素直に受け止めると思いました。講評の方法も勉強になりました。

この経験を少しでも山口県へ還元できるように試合の大小やカテゴリーに関わらず普及活動を行う所存です。

TO委員会が設立3年目に突入するに当たり組織として何が出来るか？も模索して行きたいと思えます。

最後に今回の派遣に尽力頂いた山口県バスケットボール協会、有澤審判長、兼重TO委員長には大変感謝を申し上げます。暖かく受け入れてくれました東京都バスケットボール協会や東京都TO委員長の伊藤智博氏やTO委員の皆様にも略儀ながら書中をもって御礼申し上げます。

【担当した試合について】

(1) 担当ゲーム

1 日目 紀陽銀行 VS 今治ブロッサム

2 日目 九州電力 VS 白鷗大学

(2) 役割

スコアラー

(3) 感想および反省点

「審判と TO は同等である。」ということ、ミニバスの中国大会で中野龍一氏が TO をする子ども達に話していた。その言葉の意味がこの度の研修で理解することができた。

紀陽銀行 VS 今治ブロッサムの試合では、ゲーム開始早々 24秒が鳴ったあとに、リングに当たらなかったボールを保持しそのままシュートを決める場面があった。DF 側のベンチは審判にアピールをしていたが、そのままスローインをさせようとしていた。ショットクロックの担当からブザーを鳴らすように指示があったのでブザーを鳴らした。審判が TO に確認し、正しい処置がとられた。この場面に関してはマニュアルの P.240 にあるように処置をしなければならないことがわかった。実際の審判との確認では「24秒は成立ですか？」と問われた。ルール上 24秒が鳴ったことはショットクロックの担当が審判に伝えなければならないが、24秒が成立するかしないかは審判の判断であり、TO が判断することではない。

4Q の点差が拮抗した場面では、タイマーが止まった状態で今治ブロッサムのベンチと紀陽銀行がほぼ同時にタイムアウトの請求にきた。その場面では、今治ブロッサムのベンチ前でアウトオブバウンズがあり、スコアラーの視線は今治ブロッサムを見ていた。今治ブロッサムのコーチはタイムアウトのジェスチャーと声で請求してきた。ブザーを鳴らす瞬間に紀陽銀行のコーチは「タイムアウト」といつてきたので、今治ブロッサムのコーチは「紀陽銀行のタイムアウトですよ。」と確認してきた。すぐに主任の和嶋氏が「確認できた方のタイムアウトですから、今治ブロッサムのタイムアウトだと示して下さい。」と指示があった。P36の18.3.1のルールに照らし合わせると、そのような状況でも今治ブロッサムのタイムアウトと言い切れる。

このように審判をする時だけでなく、両チームが納得する正しい TO の運営をするためにもルールの理解は大切なものだとすることを改めて感じた。

二日目の九州電力 VS 白鷗大学では、オッケーサインのタイミングや、審判のコールが違っていた時、AS へのファウル数の伝え方など一日目の和嶋主任から受けたアドバイスを実践することができた。AS が扱う機器が複雑だったので、声を出すことで、スコアシートへの記入ミスや電光掲示板の得点の訂正が迅速に行えた。

(4)主任講評

和嶋陽一氏より

- ・AS はファウル表示をゆっくりとすることで、ベンチもギャラリーも確認できる。
- ・ファウルコールがあったとき、「○番だったら、□回目です。」と AS に伝えておくとよい。
- ・フリースローシューターが交代だった場合も声を出して確認する。

- ・スコアシートへの記入は正しければよいのであって、必要以上に丁寧に書かなくてよい。できるだけ、下を見る時間を減らし、顔を上げ間接視野でスコアの記入ができるようになるとうい。
- ・スコアラーはブザーに常に手をおいて準備すること。

伊藤智博氏より

- ・TO の話す言葉はルーティーンで行うとうい。(いつもと変わらない心情で行えるように。)
 - ※「○色□番」より「A○番」と声を出すとうい。理由としては、チーム同士で色を変えていることがあるので、いつも淡色が A とは限らないため。
- ・チームファウルとパーソナルファウルは同時に出せるとタイムラグがなくなるのでよい。
- ・交代がきたときに「交代」とスコアラーに伝えるのではなく、「交代がきた。」と伝えた方が、確実に伝えることができる。(交代きそうな時にも同じ声かけをしていたため。)
- ・タイムアウト、交代のジェスチャーを大きく。ギャラリーも意識すること。
- ・都内の高校の試合はでは、子ども達の TO への意識を変えるために、勝ちオフィシャルにしている。他の地域では、負けオフィシャルが多いようだが、負けた時の罰にはいけない。TO をする時にプライドをもたせることが大切。

【今回の派遣に関する感想】

今回の研修で TO 委員の役割の大きさを感じることができたこと、そして TO 委員も審判と同じようにオフィシャルに関するルールを理解が必要であることを感じることもできたのが一番の収穫でした。このような経験をさせて頂いた県協会審判長、TO 委員長に感謝すると共に、今後はこの経験を生かし、山口県 TO 技術の向上に尽力したいと思います。

【担当した試合について】

1. 担当ゲーム 今治オレンジブロッサム VS 紀陽銀行

2. 役割 アシスタント・スコアラー

3. 感想および反省点

まず、機器が県内にないもので、使ってしまうとゲームを大きく妨げてしまうボタンがあったり、得点の表示がハーフタイムで替わらないので、前半は攻めている方向と得点を入れる方向が逆であったり、加えて、チームファール、個人ファール、タイムアウトの表示と、不慣れな操作盤に加え、やることがたくさんあり、後手後手になってしまった。早めに機器をみて操作もしたが、やることが多いからこそゲームをイメージして予め操作する優先順位を考えたり、いろいろなことが重なったときの対応をイメージしたりすることが必要であったが、それができなかった。その結果、ファールの表示が遅れたり、声を出さないといけない場面で声が出せなかったり、スコアラーをサポートすることができなかった。幸いにも得点とファールの間違いはなかったが、ベンチ、ギャラリーのことを考えると、満足のいく仕事内容とはいかなかった。いつも使っていない機器や、やることがたくさんあるときには予め頭の中でしっかり整理して臨まないといけないと改めて思った。

また、ベンチの掌握ができていなかった。反対側の交代を伝えられなかったり、両方タイムアウトが考えられる場面で片方しか見ていなかったり、まだまだ力不足な面を感じた。

4. 主任講評

スコアラーとアシスタント・スコアラーが同じところを見ているということで、始めに視野の分担やいろいろなことが重なったときの対応など、スコアラーともっとカンファをしないといけないと思った。また、個人ファールの旗の挙げ方を細かく教えていただいた。(縦に振る必要はない。上にあげ、横に180°振る。その動作を5秒で。)個人ファールの表示遅れについては、スコアラーから言われる前に、自分でスコアを見て、予測して旗に手をかけたらタイムラグを減らせると教えていただいた。

TO 間の声出し、コミュニケーションは良かったと評価していただき、県内での取組が間違いでないことを感じた。その良さをこれからも継続していくとともに、しっかり中学生に伝えていきたいと思った。

【今回の派遣に関する感想】

昨年に引き続き、このような機会を作って下さった関係者各位の皆様にご心から御礼申し上げます。本当にありがとうございました。この経験をしっかり連盟の活動につなげていきたいと思っております。

私自身、プレーヤーとしてのバスケットボール歴はなく、指導者歴3年という、バスケットボールの経験が浅い中での ALL JAPAN の舞台は、TO 業務を無事に果たすことができるのが大変不安であった。しかし、ALL JAPAN の前に、山口県内の様々な大会にて他の TO メンバーの皆様と練習することができたおかげで、本番当日は、不安が多少軽減されたように思う。

【1月2日 紀陽銀行 今治オレンジプロッサム (駒沢体育館)】

会場に到着し、山口県 TO チームが TO を担当する前の試合のハーフタイムに、使用機器を見ることができた。ゲームクロックのボタンは1つしかなかったため、他のボタンも扱うショットクロックやアシスタントスコアラーに比べると負担の少ない業務であった。

ショットクロック担当の重政氏とは、これまで県内の大会でも同じ業務を行ったことがあり、声の掛け合いなど安心して TO 業務に取り組むことができた。ゲームクロックに関しては、大きなミスはなく、順調に業務を終えることができた。

試合後の反省会にて、TO 主任の方から、「ゲームクロックとショットクロックの声の掛け合いが良かった。必要な情報を互いに伝え合うことができていたと思う。」と褒めていただいた。私の担当したゲームクロックの動作に関しては、「バイオレーションなどでゲームクロックを止める時には、ボタンを押すのと同時に手を開いて真っすぐ上げることを意識するとよい。」とアドバイスしていただいた。「一つひとつの機敏ではっきりとした動作が、審判や双方のチーム、観客の信頼を得ることにつながる」ということも TO 主任の方から教えていただき、何気ない動作にも意味があるのだということを実感した。

【1月3日 九州電力 白鷗大学(国立代々木競技場第2体育館)】

本体育館の開場前に、TO の使用機器を見ることができた。ゲームクロックは1日目に使用したのと同じ機器であったため、多少緊張感は和らいだ。この試合に関しては、ゲームクロックとショットクロックの声掛けの重要性を改めて知ることができた。ゲームクロックが再開したときに、24秒リセットでスタートのショットクロックが、7秒前後から進んでいるという事態があった。そのとき、私自身もゲームクロックにしか意識がいていなかったため、ショットクロックを見ておらず、ゲームを少し止まらせてしまった。ゲームクロックはボタンが一つしかなく、他のことに気を配ることもできるので、細かな連携についてもできたらよかったように思う。

試合後の反省では、昨日の TO 主任の方から言われたことと同様に、ゲームクロックを止める動きと、手を開いて上げる動きを同時に行うことが徐々にできるようになってきた。はっきりとしたジェスチャーの重要性を昨日の TO 業務に引き続いて感じる事ができた。

【最後に】

中体連から ALL JAPAN に派遣していただいたこと、また、経験が浅い私をサポートをしてくださった多くの方々へ大変感謝しております。今回2020年の山口全中にあたり、今回の ALL JAPAN の経験を山防地区のバスケットボール部の中学生に伝え、円滑な全中の運営に携わりたいと思います。ありがとうございました。

【担当した試合について】

1. 担当 ゲーム 1月2日(月) 16:00～ 女子1回戦 紀陽銀行vs今治オレンジプロッサム(駒沢オリンピック公園総合運動場体育館)
2. 役割 24秒オペレーター 器具:SEIKO*非表示が出来ず、非表示時は24秒表示で止めて対応
3. 感想・反省点

試合開始から終始接戦で、スピードはないものの、時間ギリギリでのショットやアウトオブバウンズが多く、まさに手に汗を握るゲーム展開。そして頑張る TO へのご褒美? OT・・・あと5分この緊張感が続くのか! ? という45分間で、タイマー村上氏の super voice に助けられ任務を遂行する事が出来ました。

<ミス1>事前に担当レフリーとSCブザーの音の確認「少し聞こえ難いけどこれでいきましょう」「聞こえてなかった時は鳴らしますか?」「鳴らして下さい。」のカンファを受け、ドライブ→ブザー→リリース→ショット入る→レフリー反応なし→慌ててブザー鳴らす&ベンチからの猛抗議→レフリー笛を鳴らし TO へ確認→24秒成立、ノーバスケ、ゲーム再開
24秒成立が明らかだった為、結果的には両チームからクレームもつかず、レフリーからも「助かった」と言われましたが、本来の任務から逸脱する【TO がゲームを止めてしまう】という、越権行為をしてしまいました。

<ミス2>フロントコート残15秒でファウルのコール→思わずリセット→慌てて秒数を戻すも FT→24秒表示にて止める
時計が止まっている間だったので、事なきを得ましたが、動揺してしまいました。

4. 主任 講 評 声の大きさ、声掛けのタイミング、タイマーとのコンビネーションも良く、ほとんど問題は無かったが、ブザーを鳴らしたのが残念だった。14秒リセットのボタンも押しにくいのを、後半から工夫されてスムーズだった。緊張の中、ミスもあったがやっている事は間違っていないので、これからも研鑽をしていって頂きたい。(和嶋氏)

1. 担当 ゲーム 1月3日(火) 14:00～ 男子1回戦 九州電力vs白鷗大学(国立代々木競技場第二体育館)

2. 役割 24秒オペレーター 器具:SEIKO

3. 感想・反省点 昨日同様、試合開始から終始接戦。加えてスピードもあり、ターンオーバーも多く、ショット後のリバウンドの競り合いも激しく、息つく間もないゲーム展開。終盤、まさか今日も OT? と思うような緊迫した中、更にパワーアップした村上氏の special voice の力を借り、任務を全う出来ました。

<ミス1>フロントコート残18秒でファウル→ストップボタンを押した(つもり)→レフリーがコールに来る前に非表示ボタンを押す→攻防変わりスローイン、指を離すと残7秒、確認が遅れリセット間に合わず、レフリータイム、時計を2秒戻しゲーム再開
しっかりと止まった事を確認せず、再開時も確認出来ていなかった。主任の方は、接触が悪い時があるからと言って下さったが、確実に確認していれば起こらなかった事で、本間氏からも、仕方のない事だが、非表示にするのが早過ぎなければ、気付いていたはず! との指摘を受けました。

4. 主任 講 評 コミュニケーションがしっかり取れていて、良い声掛けでお互いにフォローが出来ていたと思う。来年からは地方開催もあるので、それを踏まえて今後も取り組んでいって欲しい。(伊藤氏)

*両日も、自分の担当業務に関する講評のみ記載しています。

【今回の派遣に関する感想】

初めてのAJのTOで、相当緊張していましたが、新幹線に乗るなり顔面蒼白で、私の100倍は緊張しているであろう後輩の顔を見て「私が緊張してる場合じゃない!」と、改めて気合いを入れ直しました。昨年経験している中野氏、友利氏のアドバイスを受け、チーム山口として全力を尽くしました。ミスはありましたが、謙虚に、真摯に受け止め、今後の県内での活動に活かしていきたいと思います。

最後になりましたが、このような機会を与えて下さった審判委員会に感謝とお礼を申し上げます。また、昨年参加された方々の実績のお蔭で素晴らしい経験をさせて頂き、本当に有難うございました。

*本間氏、伊藤氏より、精度を上げるためのアドバイスを頂きましたので、別紙添付致します。

【今後の注意点】

- 声掛け オートマティックの方がリズムが変わらなくてよい
すっきり聞こえる声掛けを！
記録組、計時組それぞれに関わる事だけ喋る
確定していない事を話さない！
(予測は必要、でも不確定な情報は流さない)
- スコア 白・青など色で言わず、A・Bの方が濃淡を気にしなくてよい
タイムアウト・交代→キョロキョロ運動＝シュートの後、すぐに書かずにコーチ・ベンチを見る
4Q、残り2分→タイムアウトがなくなっても交代はある
ジェスチャー→会場の大きさに合わせて工夫する
- Aスコア チームファウル、個人ファウル同時表示の方が、観客・レフリーに親切
チームファウル 4→5の表示のタイミング
- TO 機器 機材への慣れ
基本操作はみな同じ、オプションをどう使いこなすかが大事
- レフリー しっかりとコミュニケーションをとる
・再開が早い→準備が出来るまでOKサインを出さない
見てくれない時は、きちんと伝えてお願いする

競技規則・マニュアルをしっかりと読み込む事！

今回の派遣に関するご報告は以上です。

ご拝読ありがとうございました。

この報告書が山口県 TO 技術向上の一助となれば幸いです。

以上

